## 自己評価 (活動計画) 令和2年度

学 校 育 計 画 香川県立多度津高等学校 (1)自ら学び、考え、行動する意欲や能力を育てる。 (4) 社会の担い手としての、望ましい勤労観・職業観や社会奉仕の精神を育てる。 教育方針(2)夢や理想に向かってチャレンジする精神や態度を育てる。 (5)一人一人の個性を磨き、豊かな道徳性やたくましい精神力・体力を育てる。 (3) 自然との共生について認識を育てるとともに、伝統文化を理解し尊重する豊かな知性や教養を育てる。 前年度の成果と課題 具体的目標 本年度の重点目標 全体評価 ・体験型学校見学会の実施、学科主任等による定期的な訪問を通じて、中学校への情報 スクールポリシーを設定し、全国からの生徒募集に対応する。 地域や産業界と連携し、専門教育の充実を図る。 発信を行った。 校内への講師等招聘事業を通じて、専門件や人間件の向上を目指す。 ・ホームページの更新や一斉配信メールの回数を増やし、校外への情報発信に努めた。 ・各学科の取り組みを深化させ、魅力ある学校づくりに努める。 体験入学の支援。定期的な中学校訪問を通じて、本校の魅力を伝える。 TAKOUかわら版、一斉メール配信や学校ホームペーンの工夫、新学校紹介DVDの作成等を通じて、情報発信を充実させる。 ・次年度の百周年に向けて、3つの部会がそれぞれ具体的な作業に入ることができた。 ・創立百周年の記念事業について各部会で準備を進める。 創立百周年記念事業については、記念誌部会は、具体的な編集作業に入る。行事部会は、記念式典の中身を検討する。 ・実習船の共同運航については、遠洋航海実習等を通じて、課題を見つけることができ ・実習船による航海実習を通じて、水産海洋教育の充実を図る。 前年度の航海実習の反省点を改善し、実習の方法や内容を充実させる。 評価 評価項目 本年度の主な活動目標 主な具体的方策 成果・反省点・次年度の課題等 年度末 中間 В 施設・設備を充実させて校内の環境を整え、学校全体の運営が適正に進められる一助とする。 仕事を分散し、それぞれの担当が活躍することができたようだ。物品の購入も迅速にできていた。 総務 役割分担を明確にし、各部署に仕事内容に見合う人数人材を配置。事務部と連携し必要物品の購入を迅速に行う Α 教務 学校行事の際、関係部署と連携を密に、組織全体で積極的に関わることができる環境を整える。 列年とは異なる形式で各担当者が関係分掌と調整を取りながら、円滑に行事が進められている。 各分掌、学科、学年団等と連携し、学校行事を円滑に行う。 Α Α 特別活動 生徒の本校への帰属意識の向上と、主体的な行動をとれる規範意識の育成。 本校の一目である自覚を常に持てるよう促すとともに、8期程度の部活動加入率を9期以上になるように努力する。 С C 部活動の加入に関して、例年に比べ、低くなっていると思う。学校行事等がなかったため、学校への満足度も低いのではと思う。 В В 生徒指導 指導人数、懲戒件数も減少しており目標はほぼ達成できた。 懲戒生徒や生徒指導部注意者の減少 発生状況を分析し、事前予防を徹底する。 В Α 教育相談 教育相談体制の充実 カウンセリングにより支援の必要な生徒を把握し個に応じた支援。SC, SSWや外部機関と連携。 外部機関との連携は、可能な限りできている。必要時にはケース会等を開き、関係職員間では情報共有できている。 准路指導 生徒の希望に沿い、適性に応じた進路実現100%を目指す 企業時間による企業機関の出有 各種行事 准監管料率を採用しての各種機関の外間と相談 准受股明や第の機関を得る機やも機やし受験対策、支援のいる生徒に関する機関を出有 В Α コロナ禍においていろいろな制限をうけたが、リモートの対応を工夫し、進路決定をすることができた。 人権・同和教育 C いろいろな人権問題について生徒に正しく認識させ、問題解決のための行動力と実践力を身に付けさせる 参加型学習形態のHRを通して積極的な取り組み。障害者との共同学習・交流学習を通じて人権意識を高める。 HRにおいて、様々な差別問題を取り上げ、知識を得るだけでなく、自ら行動に移せる態度を身につけることができた。 В 保健管理 В 新型コロナウイルスの対策・対応、啓発、情報発信を引き続き行う。積極的に安全衛生委員会を開催する 自己管理や安全に対して意識できる生活習慣を育成する。 体調管理について保健便り等で生徒に意識付け。新型コロナウイルスの連絡や啓発。エピペン・AED講習会を実施 いじめ防止対策 いじめの早期発見に努め、深刻な事態の発生を未然に防ぐ。 С В 発生したいじめ事案はその後特に問題はない。引き続き未然防止、早期発見に勤める必要がある。 生徒情報の収集、共有を図る機会を設け、生徒の実態をより的確に把握する。 В В 1 年団 あらゆる場面での基本的生活習慣を身につけさせ、規律と責任ある行動がとれるように指導。個々に応じた指導 ためでの基本的生活習慣を確立なせる。その中で、社会性や分生心を身につけなせ、場面に広じた適切か行動ができるように指揮をしていく。 基本的生活習慣の確立していない生徒に対して粘り強く指導していく必要がある。退学・転学の生徒が例年より多かった。 В В 2 年団 進路意識を高め、具体的な進路目標を早い時期から持てるように指導する。 各種機会の有効利用、関係部署との連携を通して、早期の進路目標設定に向けて保護者に協力を仰ぐ。資料等を有効に利用できるよう整備 進学希望の生徒の中には、意識を高く持っているものもいるが、全体的にまだ進路意識が高くなっているとは言えない。 Α 3年団 関係部署との連携により、進路目標達成のための適切な学習指導・生活指導にあたる。 個人面接を頻繁に行い、生徒の進路希望と適性を的確に把握し指導にあたる。情報を迅速に生徒・保護者に提供し、進路決定をスムーズに行う Α 連携指導のおかげで、ほとんどの生徒は、希望の戴職先に内定をいただけた。進学生徒も、進学先を決めた。 В 国語 文章の内容を正確に読み取り、主題や要旨を的確にまとめる。 国語辞典の利用や書取テストの練習などを通して漢字や語句の力をつけさせる。文章を正確に読み取ろうとする姿勢を身につけさせる。 С 語彙力が身についてきたが、読解力の醸成にまでは至っていない。 В 地·公 高校生・社会人に必要とされる基礎知識の定着を図り、就職や進学に役立つようにする。 В コロナ禍の中で、自宅学習での課題学習が多くなったが、概ね提出状況は良かった。復習プリントや確認テストも実施した **寒味・閉心をひき出す話闘や敷材の根示、板害事項の精選、ノートの整理・記録やワークシートへの用語記入の徹底、考査前や単元毎などの復習プリントや確認テストなどの実施** В В 数学 基礎学力の定着 分かりやすい授業の工夫。課題提出の徹底。追試や補習授業など特別指導及び個別指導。 今年は著しく学力の低い生徒が多く、個々に対応した個別指導を多く取り入れた。 C 理科 基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、科学的な思考を習得させ、進路に必要な学力や自然観を育てる。 専門で学習した内容に、関連付けて授業を展開し、科学的な側面から思考力や基礎学力の定着を図る。 C できるだけ関連付けるように取り組んだが、進度面を最優先に考えたため、不十分な科もあった。 C В 保体 集団と個人の安全面について理解させ、体力、運動能力を高める様々な活動に取り組めるようにする。 集団と個人の安全面について理解させ、積極的に体つくり運動、選択種目などを取り入れながら、体力、運動能力の向上を目指す 体育の授業において感染症防止対策を行った。生徒の体力減少と経験できる種目内容が少ない。 В В 鑑賞活動を充実させながら、生徒の意思や感性を尊重した作品制作を行うことができた。 芸術 基本的か宝技力・経営力を身に付けるとともに 幅広い表現活動を通して個々の咸性を高める 個別指導の充実 相聴覚熱材を利用し、作品を幅広く鑑賞できるようにする 鑑賞と制作相互を関連して学習できるようにする В В 学年が進むにつれて提出物の状況がよくなってきた。 英語 英語に興味関心を持たせ、積極的にコミュニケーションする態度を身に着ける。 授業以外でも、ATLとのコミュニケーションをとる。提出物を必ず提出させる。 В В 家庭 家庭生活に必要な基礎基本の定着を図る。 個々に活動する実習を積極的に取り入れ、技術の定着を図る。 コロナ禍でも可能な実習方法を今後も検討していくとともに、基礎基本の定着を図りたい。 Α 機械 空学や実習で身につけた知識や技術を活用できる能力の育成とものづくりの楽しさを知る。 課題研究を通して、身に着けた技術や知識が生かせることを実感させる。発表や広報活動を通じて伝えられるようにする。 Α 100周年の成果発表に向けてよい準備ができた。発表会やホームページ・産行教育フェアーなど校内外にもしっかりとアビールできた。 В 雷気 専門分野に関する基礎知識や技能を身につけさせ、将来の電気技術者を育てる。 興味関心が持てみようにわかりやすい授業を行う 知識の定義と活用として専門に関する絵定や資格試験に取り組ませる Α IT機器を使っての授業は、興味関心を引くことができた。来年度ドローン講習の準備ができた。 В В 年度当初の遅れや不安もあったが例年通りに終えることができた。 土木 基礎的な知識・技術を定着させ、土木技術者に求められる資質や能力を養う。 座学と実習を関連付けて、実践的・体験的な活動から学習の動機づけを図る。学習内容を精査し学習目標を明確にする В Α 教室のモニターを使った授業は生徒の反応も良く、これからの展開に期待したい。 建築 就職を意識した、建築への興味・関心を持った授業を展開する。 授業の進め方において、参考資料や映像など教材を生かした取り組みを行う。 В R 各先生方の協力を得て問題行動の発生を抑止することができたが、授業中の態度不良の生徒が見受けられた。 技術 基本的生活・学習習慣の確立。人に迷惑をかけない、人の気持ちがわかる生徒を育成する。 整理整備、清掃指導を通じて学校は公共の場であることを自覚させる。良好な対人関係を構築させ、長期間の乗船実習に適応できる力を身に付けさせる 学習指導要領の改訂や社会のニーズ、変化する社会情勢に対応すべく、積極的に教育課程を見直していく。 В D 生徒に向き合う時間や学科の魅力アップに十分な時間を割けず、成果を上げられなかった。 生産 進路指導の充実と海洋生産科の学科としての魅力アップ